

# Spire\_M

小学校版

P.2 **これからの音楽科教育  
「実感を伴った理解」が子どもたちの力を育む**

筑波大学附属小学校教諭 高倉 弘光 平野 次郎

P.8 **身の回りの音や素材を取り入れた音楽活動について**

信州大学准教授 桐原 礼

P.12 **教科書の学びが 広がる 深まる まなびリンク**

P.14 **KOBEYA通信 第2回**

まなび  
リンク

淀川河川公園背割堤地区の桜  
“教科書の学びが 広がる 深まる  
まなびリンク”から



教育出版

# これからの音楽科教育

# 「実感を伴った理解」が 子どもたちの力を育む

筑波大学附属小学校教諭 高倉弘光 平野次郎〈対談〉

令和2年度から、新しい学習指導要領が完全実施されます。また、新しい評価規準に関しても現在（令和元年6月）国立教育政策研究所で検討が進められているところです。そのようななか、これからの音楽科の授業づくりで求められる視点について、筑波大学附属小学校の高倉弘光先生、平野次郎先生にお話を伺いました。（編集部）



高倉弘光 Hiromitsu Takakura



## 知性と感性の両輪で、 子どもをまるごと育てたい

高倉弘光先生（以下、敬称略） まず、改訂された指導要領のどこがどのように新しいのか、という話から始めますが、今回は学習指導要領の歴史で考えると9回目の改訂となるそうです。今までずっと「内容ベース」で示されてきた指導要領が、今回初めて「資質・能力ベース」で示されて、これは実は大きな考え方の変化と言えます。資質・能力は、①知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③学びに向かう力、人間性等 に整理されましたが、その三つを、どの教科も共通して目標に掲げている。今までの学習指導要領では、教科ごとに目標や内容を立ててありましたが、今回はどの教科でも共通して「三つの資質・能力を育む」ことが目標になった。なぜこのような変更が行われたかという、これからの予測が困難な時代 — 例えばAIの進化により雇用のあり方が変わる、人生100年時代を迎え退職後の生活が数十年に及ぶ、など — に生きる子どもたちが、「自分の考えで生き抜いていく」「長い人生の中で、自分の幸せを自分で見つけて生きていく」ための力をどうつけて

いくか？ という方向に議論自体が変わった。だから音楽科でも、単に「上手に歌えればいい」「曲を沢山知っているのがいい」というような考え方が今まであったとしたら視点を変えて、「長い人生を生きるために必要な資質・能力を、音楽科ではどうやって育むか」にシフトして授業をつくろう、というのが今回は大前提になると思います。

それと、指導要領の「内容」の部分ですが、今回多くの教科がア 知識及び技能 イ 思考力、判断力、表現力等 の順番で整理されていますが、音楽科は ア 思考力、判断力、表現力等 イ 知識 ウ 技能 の順で整理されていて、他教科とは並び方が違う。理由を想像すると、音楽科はどうしても技能教科と言われやすかったのですが、「知識や技能を得たり生かしたりしながら思考判断する」ことを重視してこの並び方になったのではないかと、これからの授業のあり方や組立て方に示唆を与えるものではないかと個人的には考えています。

**平野次郎先生（以下、敬称略）** 新指導要領に対応して、実際に授業で大切にすることは何か？と考えたとき、指導要領には「音楽的な見方・考え方」という言葉が組み入れられた。これについては「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその動きの視点で捉え」と解説書に書かれているのだけれど、自分はこれは「知性の面と感性の面と両輪が大切」ということかと捉えています。指導要領が「資質・能力ベース」で示されたということは、授業でも、何をさせるかではなく、「どのように学ばせるか」が大切になる。自分は今回の改訂は、ある意味「学ばせ方改革」ではないかと。その中で音楽科では子どもたちの「音楽に対する感性を働かせる」ことが重要になると思います。子どもたちの個々の感性を十分に働かせられるような授業をめざす…歌唱や器楽の技能を伸ばすだけの授業ではなくて、感性の部分と知性、すなわち論理の部分、その両方の視点で、子どもをまるごと育てていく考え方が大切だと考えます。

**高倉** 感性と知性の関わり、知識や技能の扱いにおいて課題としてよく挙がるのは、「この曲をこうやって歌いましょう」といった指導になりがちだということ。子どもたちがまだ必要としていないタイミングで、「口の開け方はこう」「声の出し方はこう」と先に教えちゃう。もちろん教える必要はあるけれど、技能や知識を子どもがどういうタイミングで欲しがるのか…のリサーチの上で、1から10まで全部教師側から教え与えてしまうのではなくて、「ここは子どもたちが自分の力で獲得してほしい知識だ！」というときは、「タイミングを見極めて」「実際の音と絡めながら」「子どもの心が動いているときに」与えるようにしたい。例えば授業中、音を聴いた子どもには「わあきれい！先生、この音、何の音？」などと言わせたいですね。その一言から進めていける。先に「これは〇〇の音です」と教えるのではなくて、獲得してほしい知識を「実際の音と絡めながら」与えたい。知性と感性、論理と感覚をうまく行ったり来たりさせられるような授業づくりが、今まで以上に大切になると思います。

**平野** 器楽の扱いでも、まずは打楽器の音色や材質に気付かせながら、音探しをさせます。「トライアングルは音が伸びるけど、木の楽器は音が短いな」といった気付き…実感を伴った理解が大切で、その前に「先生がこう打ちましょう」と伝えてしまったら、子どもたちの気付きを止めてしまう。

領域・分野によらず、「学ばせ方改革」の視点からすれば、教師からの一方向的な指導を変えていこう、ということでしょうか。結論を示したり、教師からの一方向的な指示に子どもが乗かって授業が進むのではなくて、子どもたちが自分で考えることが必要だということですね。



平野次郎 Jiro Hirano

高倉弘光 対談 平野次郎

# これからの音楽科教育

**高倉** 音楽科は長年にわたり技能教科と言われてきて、上手になることが大切、という考え方が一般的だったけれど、これからは「この歌をどう歌いたいか」「どう演奏したいか」「どういう音楽をつくりたいか」といった子どもの思いを授業の真ん中にしよう、ということだと思います。子ども主体の授業をしましょう、と。例えば子どもたちの即興表現をこちらが（教師が）その場でどうやって受け止めて、どうやって返して、どうやって広げてあげられるか。そして子どもたちに「自分たちでこんな風にできた!」という成就感を味わわせてあげることができるか、という、こちら側の意識改革のようなものは、今まで以上に大切になってくるし、指導要領の「知識や技能を得たり生かしたりしながら思考判断する」ことの重視に繋がっていると思います。

**平野** そういえば、指導要領の書きぶりには「～しながら～する」のような形がいくつも見られますね。こちら（教師側）が意図した一方向的な指導ではなく、子どもに過程を委ねるところが、「～しながら」の部分なのでは、と感じました。委ねることで子どもの活動が広がるし、具体的な手立てについては、指導要領や解説書にも「体を動かす」「いろいろな表現を試しながら」「子どもが気付くように促す」「協働」などのヒントが書かれている。獲得させる目標へ教師が一方向的に導くのではなく、過程で多様な学び方を子どもたちに委ねながら進める授業。一方向的でない教師の役割が大切になってくるということですね。

**高倉** 歌唱の技能に関する面で加えると、子どもたちが自ら「曲に合った声」を考えることが大切かと。例えば4年生の最初で「世界中の子どもたちが」と「エーデルワイス」を歌わせたとき、子どもたちはこちらが何も言わなくても声をがらりと変えます。「どうして?」と聞くと「この曲はそういう曲じゃないから」と言ったりする。もちろん気付かない子も沢山いますけど、「どうやら、曲に合う声というものがあるみたい…」と、4年生くらいから少しずつわかってくる。その気付きを大切にしたい。それと、高い音域を歌うときに、地声のままの子もいるし、声を変える子もいる。そういうとき、私は通常の授業では声質を揃えないことが多いです。



**平野** 指導要領にある「自然で無理のない声」は大人が判断するものではなくて、子どもが自分で考えるものかもしれないですね。子どもにとって自然ならそれでよいのではないかな…個人的な考えですが。さらに言うと、西洋音楽だけでなく日本の民謡をどんな声で歌うと合うのか? と考えさせることも必要になってきた。頭声的発声との違いや、地声でも遠くに届くように歌う声もあるんだ、と発見したり。生活の中で抑揚をつけて歌うものの例からスタートして、民謡の歌い方に気付くような形があってもよいのではないかと思います。例えば石焼き芋屋など町の中で聞こえてくる声を扱うのは、生活と音楽との関わりの、ひとつの窓口になります。そこを窓口にして、音楽が苦手な子、音楽は自分と遠いところにあると思っている子にも、実際には音楽は近いところにあるんだよ、と気付かせるような題材の組み方も面白いのではないかと考えています。

**高倉** 多様な表現の仕方を体験させてあげ、受け入れることが大切ですね。早口言葉、日頃の遊び、子どもたちに近いところにある音を使った活動も面白い。そこから音楽的な見方・考え方に繋がっていくことが重要だと思います。

## 対談 「学ばせ方改革」は スモールステップで

**高倉** 小学校で音楽を教えているのは、全国的には専科の先生が少ないという現実があります。専科でない先生方にとっては、他教科のように「知識を知識として教える」ことはイメージしやすくても、子どもたちの表現をその場で判断することや、音楽的な根拠をもって子どもたちとやりとりすることは確かに難しい場面もあるかもしれない。



**平野** 専科でない先生方の「学ばせ方改革」の第一歩としては、肩の力を抜いて子どもたちに問いかけてみることから始めてみてはどうでしょうか。例えば3年生の「富士山」で、「一番力強く歌いたいところはどこだろう」と問いかける。最初から「こう歌いましょう」と言うのは気を張っちゃうけど、「子どもと一緒に表現をつくっていこう」とするなら、一緒に「感覚的」にも「論理的」にも答えに迫ってみる。その答えは決して一つじゃないけれど。用いる手段としては、旋律の流れに合わせて手を動かしてみたり、歌詞を読んでみたり。子どもたち自身がどういう風に歌いたいかを見つけていく。そのときの先生の気持ちとしては、「子どもたちに学び方を、ちょっと任せるよ」みたいな。きっといろいろな方向性を子どもたちが示してくれるし、「学ばせ方改革」の第1歩は、まずは緩やかなチャレンジでよいと思います。急激に全部変えるのではなくて、少しずつ試してみるのがよいのではと。

**高倉** 教材を扱うときに「この曲について、ひとつだけ発問するとしたら何だろう」と、私もよく考えてみます。一つだけでよいので、音楽としての発問をすることで、授業が変わる気がします。「歌って終わり」の授業で無くなるのは、そこからではないかと思います。

**平野** それから、授業の最初に5～10分程度取り組む＜常時活動＞でも、一つの問いかけで子どもたちの気付きが広がる場面があります。例えば輪になって手拍子を1発打って回していく活動で、「さあ、手からどんな音が出せるかな」などと声をかけると、自分の出す音にも、人が出している音にも子どもたちは気付こうとします。友達の音について、「どうしてよかったか」と理由を考える姿や、「自分は次はこうしたい」といった主体性も引き出せると思います。メインの学習活動だと緊張しちゃう子も、常時活動では失敗してもあまりショックを受けずに取り組めるとか、クラス全体で協働する活動が設定できるとか、いろいろな利点もあります。常時活動としては、発声練習やリコーダーのレパートリーを増やす取り組みも多いと思いますが、即興性のある活動を取り入れることにも大きな意味があります。こういった活動では、「お友達に拍手できたね」などと声をかけたりしながら、人間性やお互いの尊重などの面でも子どもを捉えられて、コミュニケーションの視点でも有効です。

# これからの音楽科教育

**高倉** そういえば新指導要領の中で、「コミュニケーション」と「協働」は初めて使われた言葉ですね。もちろん今までも大切にしてきた視点だけれど、言葉として入ったことに着目すべきかもしれない。平野先生のお話にあった1発だけ手を打っている色々な音で回すような本当に簡単な活動から、音でコミュニケーションが生まれ、協働的な所産がある。「〇〇くん、面白い」「☆☆ちゃん、すごい」といった子どもたちの声を、「どこが面白かったかな」「どうしてかな」などとその場で教師が受けとめ価値づけることが、子どもたちの資質・能力に繋がっていくのではないかと思います。そういう面では、音楽づくりの各項の(7)「音遊びや即興的な表現」は、直接的に資質・能力に繋がる大切な学びで、活動が多様に広がる点は常時活動向きだとも思います。

## 対談 実感を持った学びを 系統だてる大切さ



**平野** 平易な活動から始めて、子どもが獲得した力を生かして活動を広げていくことも大切ですね。例えばリコーダーで、ソラシが吹けるようになった → その3音で4分音符のリズムでリレーしてみる → 自分でリズムを考え、3音で短い旋律づくり の流れとか、打楽器で音を見つけた → リズムを考え、見つけた音でリズム打ち の流れとかでしょうか。領域・分野に捉われずに、子どもたちが得たことが少しずつ繋がりが広がっていくような系統が望ましい。特に打楽器の音色については、音遊びや即興的表現を入口にして「実感を伴った理解」があると、器楽でもその学びが生きてくると感じています。

**高倉** 教材ごとに「できた」「覚えた」で完結するのではない、平易な学びの継続と積み重ねが、資質・能力を育むうえで大切ということですね。新指導要領では一見「知識」がクローズアップされたように見えますが、これも断片的な知識ではなく積み重なっていくものであってほしいと個人的には思っています。例えば音階を使った旋律づくりで、中学年ではリコーダーの学習と絡めて3音 → 5音と音を増やしたり、ほかの表現教材や鑑賞と絡めて日本の音階を扱ったりする。高学年では和音に合わせて8音でつるとか、黒鍵だけとか、全音音階とか…少しずつ知識の引き出しを増やしていくけれど、そのときには必ず音を通す。そして比較しながら体験する、などの工夫も大切です。

**平野** 歌唱共通教材の扱いにも系統性はもたせられると思います。例えば「旋律のまとまり方」は、音楽づくり(旋律づくり)でも重要な視点ですが、「春の小川」「スキーの歌」「おぼろ月夜」など共通教材には「続く感じ」「落ち着く感じ」を意識しやすい曲が多い。旋律のまとまりを意識した子どもたちは、「前のあの曲と同じ形かな?」「あれ? 思っていたのと違うな」などと、次に出会った曲で比較します。このような、知識が繋がっていく学びがとても大切だと思いますし、それと、曲の理解には、

先ほども話が出た「ふじ山」で旋律の流れに合わせて手を動かすとか、「こいのぼり」で付点のリズムを意識しながら体を動かすとか、そういった活動を取り入れることも有効です。いずれにしても、従来よく見られた「様子を思い浮かべて歌う」だけでは、多様な学びに繋がらない。子どもが気付ける発問や、教師が意図的に楽譜のリズムを変えて比較させるなど、実感できる活動を提示しながら系統性をもたせるようにしています。

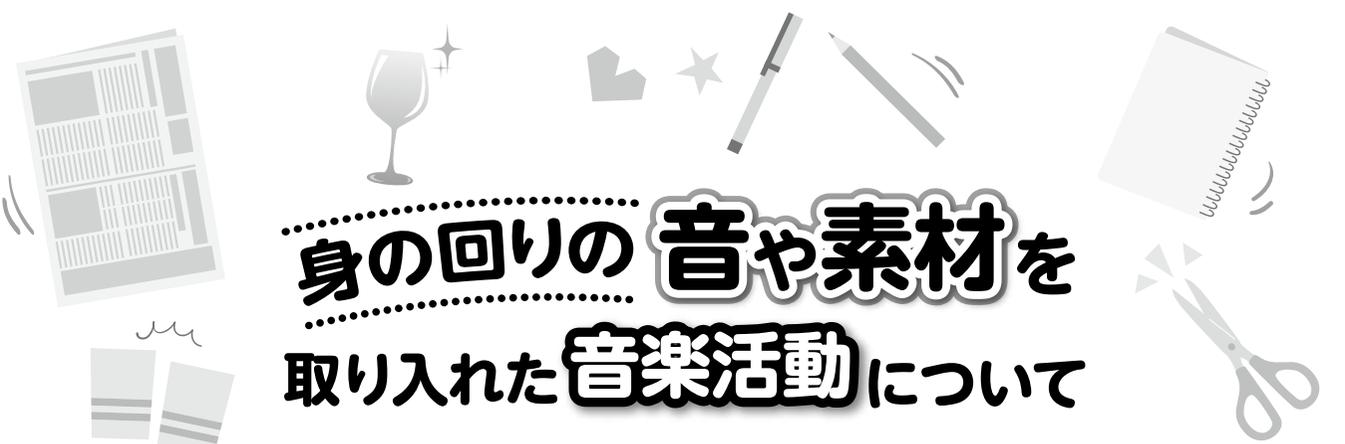
**高倉** 領域・分野の垣根を超えた系統性も考えたいですね。例えば、低学年で「こぶたぬきつねこ」や「山びごっこ」などのまねっこ歌と、「かえるの合唱」のようにまねしながら重ねる輪唱曲との違いに気付くと、いずれ高学年の鑑賞「クラッピング ミュージック」のずれの音楽や、6年の「カノン」にも繋がる。これらの学びがときには音楽づくりとも繋がりながら、子どもの知識の引き出しを全体的に増やして行って、音楽との関わり方を豊かにする。子どもたちが「こういう風に聴くと楽しい」「こういう風に歌い方を変えたい」と思うようになる。音楽との豊かな関わり方…。「音楽の楽しみ方」を得ていく過程を大切にすべきだと思います。



**平野** 「山びごっこみたいに、まねっこで音楽づくりしよう」とか、次は「かくれんぼみたいに呼びかけっこで（違うフレーズ同士の呼応で）音楽づくりしよう」とか、既習教材と同じ仕組みを用いた音楽づくりなども、低学年からできますね。授業で一方的に与えられたものは「情報」の一片として忘れられやすいけれど、実感を伴った理解は「経験を経て獲得した知識」として身に付きます。それが情報と知識の違いかもしれないですね。

器楽合奏で意識するパートの役割なども、音楽づくりで「全体を支える役割」「かざりの役割」「二つのパートが呼応している」などを経験していると、合奏でも子どもたち自身で音や奏法を考えられるようになってきます。先生が一方的に「こういう奏法で」と示すのではない学びが生まれます。

**高倉** 体験で得た知識は、感性と関わった知識ということになります。それを系統立てて獲得していく。情報として知るのではなく、実感を伴った知識として子どもたちが得ていくことが重要…これは最初の、「子どもたちがどう生きていくか」の話と繋がりますね。例えば「思考」とひと口に言っても、ある程度の知識がないと考えることもできない。子どもたちが実感しながら知識を得て、それが思考のもととなるのが、音楽的な見方・考え方を働かせることに繋がると思います。ぼくらは知識をいかに有効に使って音楽を楽しむかや、楽しみながら知識や技能を得て、さらに思考を深めていくかについて、工夫して示していきたいと思います。子どもたちが豊かに音楽と関わっていくために。



# 身の回りの音や素材を 取り入れた音楽活動について

信州大学准教授 桐原 礼

## ★ ★ はじめに

平成 28 年 12 月の中央教育審議会答申において、今後の音楽科において更なる充実が求められることの一つに、「生活や社会における音や音楽の働き」に関心を持つことがあげられました。これを受けて、新学習指導要領の小学校音楽科の目標においては、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」を育成していくことが掲げられ、教科の学びの本質となる「音楽的な見方・考え方」を働かせる際にも、「生活や文化などと関連付けること」と示されています。『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』には、「生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力」について、「児童の生活や、児童が生活を営む社会の中には、様々な音や音楽が存在し、人々の生活に影響を与えている」ことに基づき、「児童が音や音楽に目を向け、その働きについて気付くことを促すとともに、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成の素地となる」と述べられています（p.11）。普段は意識していないような生活の中の様々な音に耳を傾けてみたり、身の回りにある素材を活用して音楽を作ってみたりする活動は、こうした資質・能力の育成に有効に働くのではないのでしょうか。

本稿においては、子ども達の身の回りの音や様々な素材を取り入れた音楽活動についてご紹介します。

## ★ ★ 楽曲やパフォーマンスの例

ジョン・ケージ作曲の「リビングルーム・ミュージック」は、家の中にあるいろいろなものを用いて演奏されます。You Tube でもいくつかの演奏を視聴することができますが、新聞紙、瓶、調味料入れ、段ボール、机、電卓、タッパー、ノート、ワイングラスなど、奏者によって用いている素材は様々です。また、イギリスで結成された「STOMP」は、楽器を使用せずに、ストーリーやセリフもなく、生活の中にある様々な素材の音を奏で、それらの独特な音と複雑なリズムを重ね合わせてパフォーマンスをしているグループです。デッキブラシ、マッチ箱、バケツ、スプーン、ペットボトル、ライター、パイプ椅子、新聞紙、バスケットボール、空き缶、ビニール袋、ゴミ箱、その他様々なものを扱っています。「The Kitchen」と題されたパフォーマンスにおいては、実際の厨房の中で、野菜を切る、水道の水を流す、ミキサーをかける、鍋やフライパンを叩くなど、厨房におけるいろいろな音が組み合わせられています。

子ども達と共にこうした演奏を視聴しながら、身の回りのどのような音や素材を扱うことができそうか、またどのように奏でたら良さそうかなど、話し合ってみるとよいでしょう。

## ★ ★ 実践アイデアの紹介

子ども達の身の回りの音や素材を取り上げ、どのように音を出すことができそうか、子ども達に発見させてみましょう。先生と子ども達、どちらが多く音を見つけることができるでしょうか。以下に、いくつかの例をご紹介します。

## (1) 新聞紙

新聞紙は、擦ったり破ったりしながら、多様な音を出すことができます。いろいろなリズム・パターンでこれらの音を出してみたり、音符の種類を組み合わせて短いフレーズを作ってみたりしながら、それぞれのリズムに合った新聞紙の音の鳴らし方を工夫してみましょう。例えば、下の写真の「③縦に振る」音は、雨がしとしと降るような音や、8分音符のような速いリズムを表すことができます。続いて、ゆったりした曲調の楽曲に合わせてリズムを奏で、丁寧に音を出しながら、小さな響きを味わったり強弱などを工夫したりするとよいでしょう。



①ひらひらと舞う



②広げたり閉じたり



③縦に振る



④こすり合わせる



⑤柔らかくつぶす



⑥二枚を打ちつける



⑦破る



⑧丸めて打つ

## (2) 文房具などの利用や、机を打つ

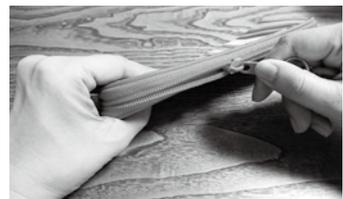
教室内で子ども達が持っている文房具などを用いて、音を探しましょう（ただし、安全面や物を大切に扱うことについて、声かけをする必要があります）。これらの音を小打楽器の代用として、簡単なリズム・アンサンブルをしてみましょう。また、軽快な曲調の楽曲に合わせてリズムを奏でてみると、子ども達はオーケストラの一員になったような気分で活動することができるでしょう。



①キーホルダーを振る（鈴）



②ファイルのリングをこする（ギロ）



③筆箱のファスナーの開閉（ギロ）



④筆箱を振る（マラカス）



⑤二本のペンを打つ（クラベス）



⑥はさみの開閉（トライアングル）



⑦こぶしで打つ (大太鼓)



⑧手のひらで打つ (小太鼓)



⑨こぶしでコツコツと打つ (ウッドブロック)

### (3) ペットボトル

ペットボトルもまた、様々な音を出すことができる魅力的な素材です。子ども達は、何種類の音を発見できるでしょうか (今回は、本体部分にギザギザの溝が入っているタイプのペットボトルを選んでみます)。

大きな音や短い音のほか、ペットボトル本体やキャップのギザギザ部分をひっかくと、長く優しい音も出すことができます。楽曲に合わせて、例えば以下のように音を当てはめてみてはいかがでしょうか。

全音符、2分音符：本体のギザギザを爪でひっかく、キャップのギザギザをひっかく

4分音符：手のひらで本体を打つ、底を叩く、二人で打つ

8分音符：本体をつぶして戻す (押す音、離す音)、飲み口を笛のように吹く

16分音符：キャップを爪で叩く

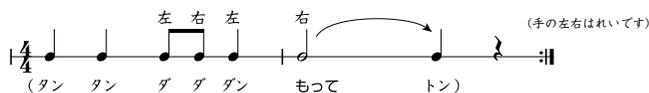
### (4) “カップス”の応用

“カップス”をご存じの方も多と思います。映画「Pitch Perfect」(2012 アメリカ)の“カップス”の動きはかなり難しいのですが、ごく簡単な動きにアレンジして、グループで歌に合わせて、紙コップなどを隣りの人に回していく活動を行うことができます。

#### 【簡単な動きにアレンジした活動の例】

##### 歌に合わせてカップリズムで遊ぼう

歌に合わせて、リズムを打ったりカップを回したりして遊ぼう。



(つくえを  
交ごに打つ)

(カップを  
もつ)

(となりへ回す)



タン タン



ダダダン



もって



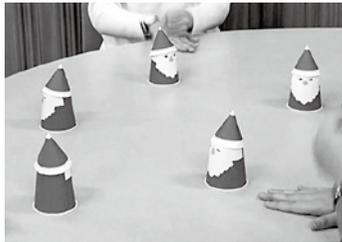
トン

※カップは紙やプラスチックなど安全なものを使おう。

また紙コップを装飾することによって、視覚的により楽しむことができるパフォーマンスとなります。教員養成系の大学授業における学生達のアイデアをご紹介します。

### 事例1 テーマ：「年末年始」

「あわてんぼうのサンタクロース」の歌と机の上を叩くリズムに合わせながら、サンタクロースが徐々に登場。歌が終わるとリズムだけになり、サンタクロースに代わって干支のサルが登場。「お正月」の歌に合わせて、新たな干支の鶏が徐々に登場。



①サンタの登場

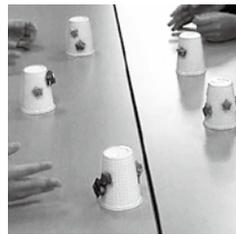


②干支のサルが登場し、さらに新たな干支の鶏が加わる



### 事例2 テーマ：「クリスマス・ソングス」

「We Wish You a Merry Christmas」, 「ジングルベル」, 「赤鼻のトナカイ」, 「もろびとこぞりて」, 「ひいらぎ飾ろう」の始めのフレーズを一人ずつ交代で歌いながらカップが登場。それらを回しながら、徐々にツリー型に積み上げていく。「Santa Claus Is Coming To Town」を全員で合唱し、サンタクロースの飾りがついたカップが登場。歌の終わりまで、ツリーの周りをサンタクロースが回る。



①ツリーの素材となるカップの登場



②ツリーの周りを回るサンタクロース

## ★ おわりに

身の回りの音に気付いたり、生活の中にある様々な素材を活用して音楽をつくったりする活動は、誰でも気軽に取り組むことができるという特徴があります。普段、読譜や楽器演奏があまり得意でない子どもであっても、このような活動において、自分自身で音を発見する喜びを感じたり、素晴らしいアイデアを出したりする可能性があります。また、幼児期の学びと育ちを小学校入学以降に滑らかに接続していくためのスタートカリキュラムの編成や、生活科を中心とした教科横断的な学習においても、身の回りの音探しや身近な素材による音遊びを組み入れることができるでしょう。中学年・高学年においては、リズム・パターンの創作やパフォーマンスを含めた作品づくりに取り組むことができるのではないのでしょうか。このような、子ども達が音に親しみながら創造性を十分に発揮させることができるような活動が、今後も広がり発展していくことを願っています。

#### 【文献・資料】

文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 音楽編』 東洋館出版社。

CD 『JOHN CAGE The Works for Percussion 2』 2012 mode records.

DVD 『Pitch Perfect』 2012 Universal Studios.

DVD 『STOMP LIVE』 Well Go USA, INC.

DVD 『Stomp Out Loud』 HBOFILMS.

教科書の学びが

《広がる》

《深まる》

# まなびリンク

学習に役立つ情報を集めた教育出版のウェブサイトです。教科書の学習内容に関連した動画や音声、PDF 資料などのコンテンツをインターネットを利用して視聴、閲覧することができます。ぜひ活用ください。



|   |   |
|---|---|
| ④ うさぎ ..... 28  | ⑥ アンサンブルの楽しさ<br>パートの変わりや曲のとくちょうを主として<br>えんそつできるかな。<br>せいじやの行進 /<br>せいじやの行進 ..... 50 |
| ③ せりつのはれとへん化<br>せりつのはれやへん化に気づきながらさけるかな。<br>ユモレスク ..... 32 | ⑦ ききどころを見つけて<br>よいなと思うところを見つけてさけるかな。<br>組曲「アルの女」から ..... 54                         |
| ④ 遊び歌めぐり<br>日本や世界の友だちの歌を楽しめるかな。<br>日本や世界の子どもの歌 ..... 36   | ⑧ みんなで合わせて<br>字んだことを主として、友だちと合わせられるかな。<br>パフ ..... 56                               |
| ④ 白鳥 ..... 34   | 音のひびきや<br>組み合わせを楽しもう ..... 58   |
| ④ 遊び歌めぐり<br>日本や世界の友だちの歌を楽しめるかな。<br>日本や世界の子どもの歌 ..... 36   |   |
| ④ 十五夜さんのもちつき ..... 37                                     |   |
| ④ 蘭気なかじや ..... 38   |   |
| ④ ふじ山 ..... 40  |   |
| ⑤ 曲に合った歌い方<br>歌しやせりつに合った歌い方で歌えるかな。<br>森の子もり歌 ..... 44     |   |
| ⑤ 雪のおどり ..... 46  |   |
| ⑤ チャチャチャのリズムで遊ぼう ..... 48                                 |   |
| ⑤ まほうのチャチャチャ ..... 48                                     |   |
| ⑤ まほうのチャチャチャ ..... 48                                     |   |
| しりょう<br>「音楽のもと」とまとめ ..... 74                              | (マークについて)   |
| 楽き図かん ..... 75  | かんしょう   |
| 音楽を奏するいろいろな音楽 ..... 76                                    | にっぽんのうた みんなのうた  |
| 音ぶや休ふ、記号など /<br>リコーダーの指づかい / 打楽しりょう ..... 77              | 音のスケッチ  |
| ⑧ ころの うた ..... 78   | Short Time Learning (楽譜の型)  |
| あのみこの町 / 七つの子 / まっかな秋                                     | まなびナビ (学び方を知らう)   |
|   | 前の学習を思い出そう。   |
|   | 今のページも見てみよう。  |
|   | 共通教材  |

教科書の  
目次ページ下にある  
URLや二次元バーコードから、  
パソコンやスマートフォンで  
アクセスしてください。



3年目次

## …「見る」マーク

このマークがあるところでは、動画をご覧いただけます。例…4年10ページ「淀川河川公園背割堤の桜」



京都府 淀川河川公園背割堤地区



教科書4年 p.10

こおろぎ

くつわ虫

うまあい



もつとあそぼう



ながうた「むしの声」

なかうちらよしこ 中内蝶二 作歌 さんかいしほやろくしろう 三世祥屋六四郎 作曲

教科書2年 p.31

## …「聴く」マーク

このマークがあるところでは、音声をお聴きいただけます。例…2年31ページ「虫の鳴き声」

例…2年31ページ「虫の鳴き声」



音楽（おんがく）2年31ページ 虫のこえ/①まつ虫

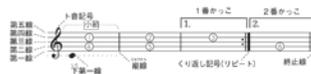


## …「知る」マーク

このマークがあるところには、PDF資料が用意されています。

例…6年77ページ「音ぶや休ふ、記号など」

### 音ぶや休ふ、記号など



| 音ぶ | 名前     | 長さ    |
|----|--------|-------|
| ○  | 全音ぶ    | [Bar] |
| ♪  | 付点2分音ぶ | [Bar] |
| ♪  | 2分音ぶ   | [Bar] |
| ♪  | 付点4分音ぶ | [Bar] |
| ♪  | 4分音ぶ   | [Bar] |
| ♪  | 付点8分音ぶ | [Bar] |
| ♪  | 8分音ぶ   | [Bar] |
| ♪  | 16分音ぶ  | [Bar] |

シャープ フラット ナチュラル

♯ ♭ ♮

半音上げる 半音下げる もとの高さにもどす

ピアノ メゾソプラノ メゾフォルテ フォルテ

*p* *mp* *mf* *f*

弱く → 強く

クレシェンド デクレシェント アクセント スタッカート

だんだん強く だんだん弱く 音を立たせて 音を弱く切る

プレス タイ スラー

V 倍つぎ 同じ高さの なめらかに

教科書6年 p.77

### 音ぶや休ふ、記号について

#### 1.音ぶについて

いろいろな音ぶがありますが、それぞれの名前がわかりますか？  
音ぶは、音が鳴っている長さを表します。

#### 音ぶの長さ



#### 音ぶの形の名前



また、音ぶは (五線ふ)

などに書かれたときは、  
たまの位置で音の高さを表します。

#### （音ぶの音）

今から550年くらい前に使われていた音ぶは、今の音ぶを比べてみよう。



# KOBEYA通信

第2回

教育出版 音楽科の Web 特設サイト「音楽の小部屋」。  
楽しみながら音楽を学べるコンテンツを更新中です。  
2018年6月に開設してから1年以上が経ち、おかげ  
さまで多数のアクセスをいただいております。  
「音楽の小部屋」をこれからもどうぞよろしくお願い  
申しあげます。

こちらから  
アクセス  
できます。



<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/docs/music/kobeya/index.html>



## コンテンツ例



## 音楽よもやま話

### 音楽よもやま話 オーケストラ編 構成・執筆 早川 元啓

クラシック音楽ってなんだか難しそうだし、ましてやオーケストラなんて…と構えてしまいませんか？ この Q&A を読めば、苦手意識がなくなり、親しみがわいてくるかも。

さまざまな視点からオーケストラの魅力に迫ります。新たな一面を知って、オーケストラと親しくなりましょう！

音楽よもやま話では、知っているようで実は知らない、簡単なようで実は奥が深い。そんな豆知識を Q&A 形式でご紹介しています。



# 小学生のための合唱曲集 MUSIC JAM KIDS シリーズ好評発売中!

※価格は全て  
税込み

## MUSIC JAM KIDS 1

「U&I」 若松 欽 作詞・作曲・編曲  
「鳥になって」 瑞慶覧尚子 作詞・作曲  
「夢色マシーン」 うらん 作詞 富澤 裕 作曲  
「いのち」 小海永二 作詞 西澤健治 作曲 他  
B5判 全 18 曲 977 円 範唱 / カラオケ CD 3,086 円

## MUSIC JAM KIDS 2

「崖の上のポニョ」 近藤勝也 作詞 宮崎 駿 補作詞 久石 譲 作曲  
「来る来る春が来る」 坂田おさむ 作詞・作曲  
「ヒミツのこみち」 磯野 晃 作詞・作曲  
「笑顔でいよう」 池田綾子 作詞・作曲 他  
B5判 全 15 曲 823 円 範唱 / カラオケ / カラピアノ CD 2,571 円

## MUSIC JAM KIDS 3

「夢みるムーン」 高頭 潔 作詞 赤尾 暁 作曲  
「ラティティ」 あだち ひろたか 作詞 坂元 優 作曲  
「ゆき」 草野心平 作詞 新実徳英 作曲  
「パワー オブ ドリーム」 中田留美 作詞 海原真也 作曲 他  
B5判 全 12 曲 864 円 範唱 / カラピアノ CD 2,592 円

## MUSIC JAM KIDS 4

「トゥルー」 森 由里子 作詞 小林啓樹 作曲  
「冒険者」 金子麻友美 作詞 名田綾子 作曲  
「あしたのボクへ」 マイクスギヤマ 作詞  
梅本由紀 作曲  
「僕らの日々」 池田綾子 作詞・作曲 他  
B5判 全 11 曲 918 円 範唱 / カラピアノ CD 2,700 円



お問い合わせ： ☎ **03-3238-6908** FAX **03-3238-6999**

右の QR コードから web サイト曲集・CD のページへアクセスいただけます。



## 楽曲のダウンロード販売のお知らせ

教育出版の教科書や曲集に掲載した楽曲の楽譜や音源が、楽譜ダウンロード配信サイト「@ ELISE (アット・エリーゼ)」で購入できるようになりました!

### 特 徴

楽譜が1曲単位でダウンロードできます。サンプルをご覧ください。

指定のコンビニエンス・ストアで受け取れます。プリンターがなくてもOK。

参考音源(ピアノ伴奏,フル編成の演奏など)がダウンロードできます。試聴も可能です。

お支払いはクレジットカード、各種電子マネー、携帯キャリア決済などご利用できます。(コンビニエンス・ストアでお受け取りになる場合は現金支払も可能です)。

詳細はこちらをご覧ください

<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/tokushu/mps-ae/m-index.html>



<http://www.at-elise.com/>





第17回

まもなく締め切り!!

# 地球となかよしメッセージ

## 作品募集(2019年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、  
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。

応募者全員に  
参加賞が  
もらえるよ!

|       |  |
|-------|--|
| 応募資格  | 小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)   |
| 応募期間  | 2019年7月1日～9月30日<br>詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。   |
| 作品テーマ | ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み<br>②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること<br>③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと |

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会  
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞  
\*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね  
<https://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>

**教育出版**

「地球となかよし」事務局 TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887  
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10

前回  
入選作品



四季のある日本

私たちが住んでいる地球。その中でも、私が住んでいる日本には、春夏秋冬という四季があります。その事により、旬の食べ物や、その時期にしか見られない動物や植物がたくさんあります。そして、夏は暑く、冬は寒いといった特ちょうもあります。しかし最近では、地球温暖化により、少しずつ季節がくるっっているように感じます。これから先も、地球に住みつづける私たちが、四季を感じながら生きていくには、地球をよごさず、動物や植物を大切にしていける必要があると、ポスターをかけたことにより、あらためて気づくことができました。(小学4年)

小学音楽通信 **Spire.m** [2019年 秋号] 2019年8月31日 発行 表紙写真: 淀川河川公園背割堤の桜(京都府)

編集: 教育出版株式会社編集局 発行: 教育出版株式会社 代表者: 伊東千尋  
印刷: 大日本印刷株式会社 発行所: 教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 03-3238-6864 (内容について)  
URL <https://www.kyoiku-shuppan.co.jp> 03-3238-6901 (配送について)



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

|       |   |
|-------|---|
| 北海道支社 | 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F<br>TEL : 011-231-3445 FAX : 011-231-3509       |
| 函館営業所 | 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一ビルディング 3F<br>TEL : 0138-51-0886 FAX : 0138-31-0198               |
| 東北支社  | 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F<br>TEL : 022-227-0391 FAX : 022-227-0395      |
| 中部支社  | 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F<br>TEL : 052-262-0821 FAX : 052-262-0825        |
| 関西支社  | 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F<br>TEL : 06-6261-9221 FAX : 06-6261-9401           |
| 中国支社  | 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F<br>TEL : 082-249-6033 FAX : 082-249-6040 |
| 四国支社  | 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F<br>TEL : 089-943-7193 FAX : 089-943-7134                |
| 九州支社  | 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室<br>TEL : 092-433-5100 FAX : 092-433-5140         |
| 沖縄営業所 | 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F<br>TEL : 098-859-1411 FAX : 098-859-1411                   |

本資料は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、一般社団法人教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」のっとり、配付を許可されているものです。